

平成19年度・20年度広域連携等バイオマス利活用推進事業

九州農政局

| 事業内容 | 事業実施主体名 | 事業実施区域 | 事業概要 | 事業実施年度 | 評価実施年度 | 具体的な取組目標 | 達成状況 | 評価結果 | | 備考 |
|-------------------------|-------------------|-------------|--|----------------|--------|--|------|--|---------|----|
| | | | | | | | | 事業実施主体 | 農政局等の所見 | |
| バイオマスプラスチックリサイクルシステムの構築 | NPO法人北九州エコ・サポーターズ | 福岡県北九州市、福岡市 | <p>野球場やイベント等から回収したバイオマスプラスチック製品からリサイクルポリ乳酸を製造し、ノベルティグッズを作成しドームやイベント等で配布。 また、研究・実験用原料として新製品開発等を行うケミカルリサイクルの確立。</p> <p>数値目標 ・製品使用量:6,000kg/年 ・製品回収量:5,000kg/年 ・再生製品使用量:100kg/年</p> | H19 ~ 20 | H22 | ケミカルリサイクルにより製造したバイオマスプラスチック再生製品使用量の確定。 | ○ | <p>広域連携等バイオマス利活用推進事業における成果目標の、製品使用量(目標6,000kg・実績6,020kg)、製品回収量(目標5,000kg・実績5,022kg)、再生製品使用量(目標100kg・実績110kg)となり、全て目標を達成した。</p> <p>事業評価の提出のあったNPO法人北九州エコ・サポーターズの広域連携等バイオマス利活用推進事業の評価について、点検を行った結果、成果目標を達成していることを確認した。</p> | | |

平成19年度・20年度広域連携等バイオマス利活用推進事業

九州農政局

| 事業内容 | 事業実施主体名 | 事業実施区域 | 事業概要 | 事業実施年度 | 評価実施年度 | 具体的な取組目標 | 達成状況 | 評価結果 | | 備考 |
|-------------------------|------------|--------|---|----------------|--------|---|------|--|--|----|
| | | | | | | | | 事業実施主体 | 農政局等の所見 | |
| バイオマスプラスチックリサイクルシステムの構築 | ダイヤフーズ株式会社 | 宮崎県他 | イオン株式会社と連携し、イオン店舗で回収した卵パック等から、バイオマスプラスチックを選別する技術とコストの検証、PETが混在しても製品として再生できるかの実証実験など、マテリアルリサイクルシステムの技術構築を行う。 | H19 ~ 20 | H22 | イオン株式会社店舗においてPLA製の卵パック等を325,000kg/年使用し、15,650kg/年を店頭回収を行い、マテリアルリサイクルにより6,200kg/年の再生製品を使用し再製品化を行う。 | ○ | <p>本事業は、平成19年度～20年度の2カ年を実施期間として、(株)イオン249店舗で使用したバイオマスプラスチック卵パックを回収し、再生製品化し、(株)イオン店舗において使用するリサイクルシステムを確立すること及び、再生製品製造技術の確立を目的に実施した。</p> <p><評価結果> 平成21年4月から平成22年3月の1年間における事業の評価を実施した。</p> <p>1. 製品使用量について バイオマスプラスチック鶏卵パックとして、(株)イオンで使用した製品使用量は、目標325,000kgに対し301,194kg(対比:92.4%)の実績となった。</p> <p>これは、消費の低迷、消費者の低価格志向により石油製プラスチックを使用した安価な卵の販売が増加し、バイオマスプラスチックを使用した比較的高価な卵の販売が低調に推移したことから、目標の達成に、わずかながら至らなかった。</p> <p>2. 製品回収量について 計画値15,650kgに対して24,247kg(対計画比:154.9%)のバイオマスプラスチック製品を回収し目標を達成した。</p> <p>3. 再生製品使用量について 実施計画書では卵パックを主に製造する予定であったが、本年度は「丸ホウル(レタホウル)」の再生製品化を行った。しかしながら、コスト面の問題等により、平成21年8月で製造休止となったため、評価期間内の再生製品使用量は計画値6,200kgに対し、2,955kg(対計画比:47.7%)の製造となり、3,245kgの未達成となったものの、再生製品使用量を達成する為の原料は年度内に確保済みであり、達成は十分可能であった。</p> <p>なお、年度内に確保した再生原料の用途は、平成22年3月より納品にむけて製造を開始し、4月23日、5月18日に切り身用トレーとして500ケース(1万枚:製品使用量1,261kg)をイオンテール㈱へ納品した。</p> <p>また、5月31日、新たに800ケース(8000枚、再生製品使用料2,300kg)の発注を受け、8月18日にイオンテール㈱へ納品することとなっている。</p> <p><事業の評価の再報告> 3. 再生製品使用量について 平成22年8月18日に800ケース(8,000枚、再生製品使用量2,296kg)をそれぞれ納品し、評価期間内に使用した2,955kgと併せ、6,512kgの再生製品を製造し、イオンテール㈱へ納品した。</p> | <p>ダイヤフーズ株式会社より報告のあった事業の評価について点検を行った結果、製品回収量については、目標を達成したことを確認した。</p> <p>製品使用量については、325,000kg/年の数値目標に対し、301,194kg/年(92.7%)となり、未達成となっているが、平成20年度以降の急激な消費の落ち込みや消費動向が変化したこと等により売り上げが減少したことに基づくものであり、やむを得ないものと判断する。</p> <p>再生製品使用量については、数値目標の6,200kg/年に対し2,955kg/年の実績となり未達成であるが、残り約3,300kgについては、年度内に原料は確保済みであり4月以降製造・納品を行い、8月末には製品化の目途がついていると報告を受けているため、事業実施主体に対し再度8月末の再生製品使用量について事業評価シートの再提出を指示。</p> <p><事業の評価再報告の所見> 平成22年8月31日付けで報告を受けた事業の評価報告において、未達成であった再生製品使用量について、平成22年8月末日までの製造・納品実績を求めた結果、目標を上回る実績(6,512kg)となったことを確認した。</p> | |